

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 4

編集発行：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われている。その中の際立った活動の概要を以下に紹介する。

【 教育学科 】

酒井達哉ゼミがラビーいちごを通じて西宮市立鳴尾小学校と連携

西宮市立鳴尾小学校の 2 年生 57 人が、教育学科の酒井達哉ゼミのゼミ生が育てた「ラビーいちご」を摘む体験をするため、5 月 9 日に学校教育館を訪れた。今回のいちご摘みは、小学校で実際にいちごを栽培する前の体験学習で、今後秋から翌春にかけて、ゼミ生が栽培キットの使い方などを継続して指導する予定。

酒井ゼミは教育演習、卒業研究の一環として、大学がある鳴尾地区で明治から昭和の初めにかけて栽培された「鳴尾いちご」を環境学習における地域教材として活用するため、学校教育館の屋上でいちごを栽培。武庫女生まれの「ラビーいちご」と名付けて、2016 年度から生活科の出前授業で同小学校へ出向き、鳴尾地区で明治から昭和の初めにかけて栽培された「鳴尾いちご」の歴史を分かりやすく劇で伝え、ペットボトルを使った栽培キットの作り方や育て方を指導。児童はその栽培キットを使って小学校でいちごを栽培している。



本学 HP より

吉井美奈子ゼミの学生が尼崎市のこども食堂でボランティア

地域の子供たちに手作りの食事を提供している「夕やけ食堂」(尼崎市元浜町)に、教育学科吉井美奈子ゼミの 3 年生らが、今年の 5 月からボランティアで参加した。調理の手伝いや配膳をするほ

か、絵本の読み聞かせや遊び・イベントの提案、宿題のサポートを行う。食事の時間にはともに食卓も囲む。

「夕やけ食堂」は全国的に広がっている「子ども食堂」の取り組みの一つ。放課後、子どもたちが安心して過ごせる居場所を作るとともに、みんなで食卓を囲む楽しさを知ってもらうことを目的としている。元浜社会福祉連絡協議会婦人部で作る「モコモコ倶楽部」が、昨年 1 回、同協議会元浜南会館で開いており、小学生を中心に約 20 人が利用している。今年の 7 月には尼崎市の「支え合いの人づくり支援事業」に採択された。

神原一之ゼミの運営する学習支援ルーム「らび」が 7 期目へ

教育学科の神原一之ゼミが、地元の小学生を対象に算数を個別指導している「学習支援ルームらび」が 7 月 20 日、6 期を終え、9 月末から 7 期をスタートさせる。

「学習支援ルーム らび」は算数が苦手な小学生に、算数の面白さを知ってもらおうと、2015 年後期から始まった取り組み。毎週 1 回、全 10 回で、年に 2 期募集し、これまでに延べ 1000 人にのぼる児童を指導している。6 期目の 2018 年度前期は同ゼミの 3、4 年生 20 人が“先生”役となって、小学 1 年～6 年の 20 人に、認知カウンセリングの手法を用いた算数の学習を支援した。

学習支援は児童一人ひとりに担当学生を決め、学生は事前に子供や保護者と面談し、支援の内容や方針を決めて全 10 回で成果が出るように計画的に学習を進める。将来教員や子どもに関わる仕事を目指す学生にとっては、子どもたちに実際に接して指導力を高めるとともに、教材研究の場にもなっている。

【 健康・スポーツ科学科 】

神戸まっりのオープニングイベントに参加

5 月 20 日(日)に行われた「第 48 回神戸まっり」のオープニングイベント「おまつりパフォーマンス」に健康・スポーツ科学科の 4 年生が参加。

一般社団法人 X-PORT JAPAN とのコラボレーションで、同法人が取り組む「笑顔が生まれる姿勢体幹体操プロジェクト」と題した幼児の姿勢改善や体幹強化を目的とした体幹体操を、神戸市内の小学校に通う児童らとともにいった。パフォーマンスはフラワーロードメイン会場で2回行われた。



本学 HP より

幸野邦男講師がパンパシフィック水泳選手権大会で来日中のアメリカチームのスタッフとしてチームサポートを行う

健康・スポーツ科学部の幸野邦男講師が、8月9日から始まったパンパシフィック水泳選手権大会で来日している米国ナショナルチームに合流し、トレーニングキャンプから大会終了まで、スタッフとしてチームサポートを担当している。

幸野講師は24年間、アメリカの大学で水泳部コーチとして活躍し、日本に帰国後の2016年に、米国水泳連盟ナショナルチームから同チームの助手としての支援要請を受けた。また、アメリカでは、アリゾナ、南カルフォルニア、アラバマ、ネバダ、ニューメキシコの各大学で水泳部のコーチを務め、男女計17人のオリンピック選手を輩出した。2016年9月に武庫川女子大学に赴任し、水泳のコーチングとスポーツ英語を通じて、スポーツの国際化教育の推進を担当している。

【 生活環境学科・生活造形学科 】

三宅正弘ゼミの学生がおこしや祭りにびわ娘として参加

関西で夏祭りのスタートをきる伝統行事「おこしや祭り」が、6月14日に西宮神社で行われ、生活環境学科三宅正弘ゼミの学生も浴衣を着て参加した。三宅ゼミの「おこしや祭り」への参加は、今年で10回目になる。ゼミ生は「びわ娘」として神輿を担いだ氏子らが西宮神社からえびす様が休憩したとされる「御輿屋跡地」までの約1kmを練り歩く行列の先頭を務め、かごに入ったびわを沿道の人々に配付した。

「おこしや祭り」はえびす様が神輿にのって神社に向かう途中で鳴尾の漁師の網に引っ掛かり、

その後現在の西宮神社に向かったと伝えられ、鳴尾の町人が主役を務める祭りとして継承されている。



本学 HP より

生活環境学科・生活造形学科の学生と外国にルーツを持つ子どもたちが、豪雨災害へのチャリティーキャンドルづくりで交流

7月28日に開催された「芦屋浜夏祭り」で生活環境学科・生活造形学科の学生が、「こくさいひろば芦屋」の子どもたちとともに、キャンドルづくりのワークショップを行った。当日はキャンドルづくりを楽しむだけでなく、平成30年7月豪雨災害への寄付も募った。

「こくさいひろば芦屋」は外国にルーツのある子どもとその保護者への日本語支援と学習支援、また地域との交流イベントを行う。参加した1年生から4年生までの学生11人は、この春から「こくさいひろば芦屋」の学習サポーターとして活躍。地元の夏祭り企画として、今回の「チャリティーキャンドル作り」を考案した。



本学 HP より

【 食物栄養学科 】

株式会社大森屋と共同開発したカップスープ第二弾を発売

生活環境学部食物栄養学科の学生が、株式会社大森屋と共同開発した「トマト&豆乳仕立て野菜たっぷりスープ」が8月10日から全国発売される。2016年秋に発売した「ゆず香る野菜たっぷりスープ」がスーパーなどに展開して好評なため、シリーズ第2弾が実現した。

2017年秋、大森屋がフードサイエンス分野の3年生（当時）を中心に新たなレシピ考案を呼びかけたところ、18件のレシピが提案された。この中

から共通点の多いものや、実現性の高いものを大森屋が選び、発案者 8 人と話し合いや試食を重ねて商品化を進めた。ヘルシーな豆乳をトマトでまるやかに仕立て、キャベツやニンジンなど、野菜をたっぷり使用。一食で 1 日必要量の 3 分の 1 の野菜、必要量の 2 分の 1 の鉄分が摂取できる。パッケージも学生たちのアイデアで、赤を主体に、明るくポップなデザインに仕上げた。



本学 HP より

【 情報メディア学科 】

丸山健夫ゼミの学生が制作した自作動画が地元 CATV で放映

生活環境学部情報メディア学科丸山健夫ゼミの学生（3 年 14 名）が、地元 CATV ベイ・コミュニケーションズの情報番組「ほっとネットベイコム」で自作動画を放映した。

4 月はリゾ鳴尾浜にあるバーベキュー施設、5 月はベネチアンガラスの工房でアクセサリー作り、6 月は西宮のおいしいかき氷のお店紹介を特集。ロケハンから実際の撮影・出演、編集までを学生たちで行い、約 5 分の動画にまとめてスタジオで披露した。番組の放映地区は尼崎市、西宮市、伊丹市、大阪市西部。

丸山健夫ゼミの学生が制作した CM を甲子園球場のバックスクリーンで放映

7 月 17 日甲子園球場のバックスクリーンで、情報メディア学科丸山健夫ゼミの学生が制作した CM が放映された。CM は「武庫川学院 80 周年記念 CM」と「鳴尾いちごのクッキーを PR する CM」の 2 本。

「武庫川学院 80 周年記念 CM」は、武庫川学院の 80 年の歴史を、武庫川高等女学校から武庫川学院女子大学、武庫川女子大学へとバトンが未来へと受け渡されて行く描写で表現した。

「鳴尾いちごのクッキーを PR する CM」は、教育学科酒井達哉ゼミが地元の洋菓子店ベルンとコラボして手がける鳴尾いちごのクッキーを宣伝。学校教育館の屋上で撮影された CM には酒井ゼミの学生も出演している。

本学が制作協力する地元の歴史を紹介する TV 番組が放映中

本学が制作協力する CATV 局ベイ・コミュニケーションズの歴史番組「ジモレキ TV」の新作の放送が 7 月 23 日から開始する。今回は「香櫨園の遊園地と砲台」をテーマとし、香櫨園の地名のルーツとなった日本の草分けの遊園地「香櫨園」と、香櫨園浜にある江戸時代に建設された「西宮砲台」を、教授と卒業生が探索する。番組キャスターは本学情報教育研究センター長の丸山 健夫教授と、本学卒業生のフリーアナウンサー高木恵さん。

【 建築学科・大学院建築学専攻 】

建築学科の学生、教職員らが国道 2 号沿いの歩道の清掃ボランティアを行う

生活環境学部建築学科の学生、教職員らが 5 月 29 日、建築学科の学生が学ぶ上甲子園キャンパスと接する国道 2 号沿いの歩道や法面の清掃作業のボランティアを行った。この取り組みは、本学と国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所が 2008 年 3 月、近畿の大学で初めてとなる「ボランティア・サポート・プログラム協定」を締結して以来、継続的に行っている。

この日は建築学科の 1 年生 35 人と教職員ら 22 人の計 57 人が、約 1 時間をかけて空き缶やペットボトルなどのゴミを拾い、雑草を抜いた。収集したごみの量は、雑草・可燃物が 70 リットル袋で 38 袋、不燃物が 45 リットル袋で 1 袋。



本学 HP より

【 学生広報スタッフ La chouette* 】

生活協同組合コープこうべとのコラボレーション企画に参加

学生広報スタッフ La chouette*（ラ シュエット）のメンバー 4 人が、生活協同組合 コープこうべとのコラボレーション企画に参加した。「食に興味のある大学生が、コープの人気商品を使ってアレンジ料理のレシピを考案する」という内容で、同組合の機関紙「きょうどう」4 月～6 月号の『大学生がレシピを考えました』のコーナーに掲載されている。

「きょうどう」にレシピが掲載されるにあたり、学生広報スタッフは制作現場でもある撮影スタジオも見学。普段の学生広報スタッフの活動では、取材者側もしくは冊子制作などの制作者側の立場だが、今回の企画では「食に興味のある大学生」として取材される側になり、プロの制作現場を見学して多くのことを学んだ。

活動内容は、6月5日のラジオ関西「三上公也の情報アサイチ！」の『コープ・スコープ！』のコーナーでも紹介された。

【 広域大学連携科目 】

地域活性化システム論でららぽーと甲子園と連携

広域大学連携科目「地域活性化システム論」の最終発表会が、6月30日日本学中央図書館棟 C-604 教室で行われた。

広域大学連携科目「地域活性化システム論」は、複数大学の学生が、大学や学科、学年の枠を超えてグループを作り、それぞれの専門知識を生かしてディスカッションを行い、地域の活性化に向けた新しい知見やアイデアを創造する科目。今年度は、ららぽーと甲子園と連携し、ターゲットを「シニア層」、キーワードを「健康」としたイベント企画を考え発表を行った。授業ではイベントができる場所や来客の様子などの現場を見るために、実際にららぽーと甲子園へ足を運ぶフィールドワークも行い、より現実的なイベント企画を構想した。

発表会では今年度受講している藍野大学、大阪大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、武庫川女子大学、森ノ宮医療大学の36人の学生が7グループに別れて発表。ららぽーと甲子園全体を使った「健康クイズラリー」や「笑いヨガ」、食と美容に着目したイベントなど、発想豊かなアイデアが提案された。

提案内容は4人のららぽーと甲子園の関係者と教員で評価を行い、優秀賞が選ばれた。ららぽーと甲子園関係者からは「すぐにでも取り組みたい提案もあり、実際にイベントが行えるように、ぜひ協力をお願いしたい」との力強い言葉をいただくことができた。



本学 HP より

多職種協働グループワーク実践論で社会医療法人愛仁会と連携

広域大学連携科目「多職種協働グループワーク実践論」で8月、社会医療法人愛仁会と連携して5日間の集中講義を実施した。

授業には5大学から36人の学生が参加し、8月17日には、2017年度に移転した千船病院を見学。学生が将来、就職を考える時の参考になるよう、所属学科に応じて、栄養、薬剤、看護、臨床医工学、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションのそれぞれの部署を見学し、現場の方から説明を受けた。

また、愛仁会から出されたテーマ「医療×AI 未来の病院を考えよう ～AIで医療はどう変わる？～」に対し、大学や学科、学年の枠を超えて結成した6グループが、それぞれの専門知識を活かしてアイデアを出し合った提案を、8月28日に発表。中には、院外薬局のほぼ全ての業務をAIが担うという内容や、AIチップを体内に埋め込んで常にバイタルチェックを行うなど、大胆な発想の発表もあった。

発表会には愛仁会の関係者3人も参加し、この授業を機に、これから社会で活躍する学生たちが、将来、より導入が進むAIについて、医療現場にもたらす効果や影響を多分野から検討したことは大変すばらしいことであると、感想を述べた。



本学 HP より

【 ひょうご理系女子未来塾 】

サマースクール宿泊研修を開催

「ひょうご理系女子未来塾」が、サマースクール宿泊研修「音楽と科学が会おう夏」を8月7日から1泊2日の日程で開催した。「ひょうご理系女子未来塾」は、本学が国立研究開発法人科学技術

振興機構（JST）平成 29 年度「女子中学生の理系進路選択プログラム」の採択を受けて理系女子の育成を支援する取り組み。

今回の研修では「音楽と科学が会う夏」と題し、音楽をキーワードに科学への興味や関心を高めてもらうための体験授業やグループワーク、大学生アシスタントとの交流会を行った。また、本格的な音楽ホールである「ザ・カレッジ・オペラハウス」(大阪府豊中市)を訪れ、音の響きやパイプオルガンの音色も体験した。



本学 HP より

丹波市と連携し企業見学&キャンパス見学会を開催

「ひょうご理系女子未来塾」と兵庫県丹波市、同市教育委員会は 8 月 10 日、丹波市の女子中学生を対象に「企業見学&キャンパス見学会」を開催した。このイベントは本学と包括連携協力に関する協定を締結している丹波市とのコラボ企画で、大学の学びに触れ、将来の進路選択を支援するために、本学のオープンキャンパスの日程に合わせて実施された新たな取り組み。

イベントには 18 名の生徒が参加。企業見学では清酒メーカー「日本盛」を訪問し、女性研究員から化粧品「米ぬか美人」の誕生秘話や化粧品開発に携わる”リケジョ”の話の聞き、キャンパス見学会では図書館やマルチメディア館地下スタジオなどを見学して、大学生との交流会も行った。その後、上甲子園キャンパスで、甲子園会館（旧甲子園ホテル）のライト式建築を見学した。



本学 HP より

自治体等との連携

国連 WFP 協会と連携協定を締結

武庫川女子大学、武庫川女子大学短期大学部は 5 月 28 日、特定非営利活動法人 国際連合世界食糧計画 WFP 協会（以下、国連 WFP 協会）と連携協力に関する協定を締結した。

相互の人的・知的資源の交流・活用を図るとともに、世界における食糧状況、支援の現状を理解し、共に国際的な視野から問題解決の方法を追究することを連携協力の目的としている。国連 WFP 協会が大学と協定締結するのは本学が初めて。

締結式は本学中央図書館で行われ、本学の瀬口和義学長、国連 WFP 協会の鈴木邦夫事務局長が協定書にサインし、堅く握手を交わした。瀬口学長は「強い絆で国連 WFP 協会と連携していきたい」とあいさつ。ブラウンライスボランティア委員長で締結式の司会を務めた大西陽香さん（食物栄養学科 3 年）は「先輩方の強い意志を受け継いで、活動の幅を広げていきたい」と語った。

連携内容は以下のとおり。

- (1) 武庫川女子大学における教育活動への協力
- (2) 国連 WFP 協会が開催するイベントへの武庫川女子大学からのボランティア協力
- (3) 武庫川女子大学の学生による国連 WFP 協会の広報活動
- (4) 両者間の交流推進
- (5) その他 本協定の目的を達成するために必要な連携・協力



本学 HP より

西宮商工会議所と包括連携協力協定を締結

武庫川女子大学、武庫川女子大学短期大学部は 6 月 11 日、西宮商工会議所と包括連携に関する協定を締結した。調印式は本学中央図書館で行われ、本学の瀬口和義学長、西宮商工会議所の辰馬章夫会頭が出席。「相互に社会的資源の活用及び人的資源の交流を図り、地域社会の持続的な発展及び教育研究の向上に資する」という内容の協定を締結した。

辰馬会頭は「若い学生のエネルギーで、西宮の産業を盛り上げてください」とあいさつ。瀬口学長は「協定を契機に、これまで以上に地域連携を進め、西宮市を活気あふれる街にしていきたい」と述べた。

連携内容は以下のとおり。

- (1) 人づくりに関すること
- (2) 市民生活の充実に関すること
- (3) まちづくりに関すること
- (4) 企業・産業・観光等の振興に関すること
- (5) その他両者が協議して必要と認める事項に関すること



本学 HP より

新規選定事業

本学の提案がスポーツ庁の「大学スポーツ振興の推進事業」に選定される

スポーツ庁が、2018年3月27日から5月18日まで提案を募集していた大学スポーツ・アドミニストレーターの配置等の大学におけるスポーツ活動を支援する「大学スポーツ振興の推進事業」について7月23日、審査結果が発表され、本学の提案が選定された。今年度この推進事業は本学を含め15大学が選定された。

本学の大学スポーツ振興の推進への取り組みは以下の通り。

- ①文武両道に秀でた、社会に貢献できる学生アスリート育成に向けた学修支援
- ②一般学生および教職員のスポーツに対する関心度向上の支援
- ③地域住民に対するスポーツコミュニティー創生支援ならびに学産官連携による地域貢献

地域貢献推進委員会活動

「人と防災未来センター」を鳴尾連合自治会の会長25名と本学学生及び教職員が見学

8月8日(水)に学生4名と鳴尾連合自治会の会長25名が神戸の「人と防災未来センター」を見学。「1.17シアター」での大型映像と音響体験や、震災の記録、復興へのメッセージ、「東日本大震災のドキュメンタリー(3D)」を見学し、災害について学び語り合った。

参加者からは、阪神淡路大震災の記憶がよみがえり、改めて防災・減災の意識が向上したという意見や、学生からは、直接経験はしていないが当時の状況を知ることができ、必ず今後の生活に役立つとの力強い意見が聞かれた。



(撮影：社会連携推進課員)

防災シンポジウム開催のお知らせ

(共催：鳴尾自治会)

開催日時：2018年12月8日(土)13時～16時(予定)

開催場所：武庫川女子大学 中央キャンパス

日下記念マルチメディア館1階 MMホール
テーマ：「主として、近々に来るであろう南海トラフ地震への対応に関して」

基調講演：人と防災未来センター長 河田恵昭氏

「(仮)南海トラフ地震への心構えと減災」

人と防災未来センター所長、兵庫県、西宮市の防災担当者、本学教員・職員、地域住民、学生によるパネルディスカッションを予定している。

◆—————◆
連絡先：本館5階 社会連携推進課 中村・荻田・鈴木
内線：6211、6213 / E-mail: shakai@mukogawa-u.ac.jp